

『自治医科大学附属 さいたま医療センター』訪問記



■はじめに

埼玉県さいたま市は約135万人の人口を擁する政令指定都市であり、同市大宮区に位置する『自治医科大学附属さいたま医療センター』は、長年この地域の高度急性期病院としての役割を担っている。編集部は同センターの医療提供を支える臨床工学部を訪問し、人工心肺装置をはじめとする生命維持管理装置の管理・操作の現場取材した。同センター臨床工学部の特色を、ほんの一部ではあるが紹介したい。

■臨床工学部について

自治医科大学附属さいたま医療センターの臨床工学部には23名の臨床工学技士が在籍しており、そのうち10名が体外循環技術認定士の資格を有している。透析や体外循環など、日々の業務はローテーションで担当しており、各部員があらゆる分野の基本業務を一通りこなすことができる体制づくりに注力している。

また、居室には個人用のデスクが設けられており(図1)、おのおのがテーマをもって研究・開発などの学術活動に取り組める環境が整備されている。

さらに、居室の壁には臨床工学部の基本方針と目標が掲げられており、そのうちの1つに「インシデント報告が重要」との記載がある。実際に、臨床工学部では医療機器の取り扱いなどに関するミスはもちろん、ミスではなくても予期せぬ結果

を招いた場合にはインシデント報告を行い、原因究明に努めることで、医療の質の向上を図っている。



図1 臨床工学部の居室風景

■手術室での業務

編集部は手術室での業務を見学した。その際に人工心肺装置の組み立て・操作をしていた若手の臨床工学技士はその週、透析業務の担当であったが、手術室業務の欠員を埋めるため、体外循環業務を急遽担当することになったという。前述したローテーションで業務を回す体制が整っているからこそ、各部員があらゆる業務を担当することができ、このように人員の配置を変更することによって不測の事態にも柔軟に対応できる。また、当該技士は若手でありながらも装置の組み立てや操作の多く



図2 人工心肺装置を操作する若手の臨床工学技士

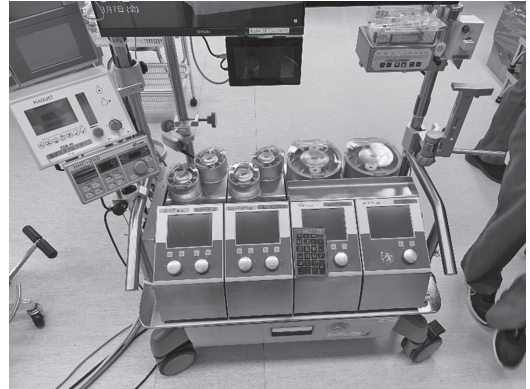


図3 同センターで使用している人工心肺装置

を任されていた(図2)。若手技士にチャレンジを促す環境や信頼関係の構築が、同センターの人材育成における強みの1つであるのかもしれない。

また、同センターの臨床工学部では、「人工心肺装置が複雑な構成であるとミスが増える」という考え方から、比較的シンプルな構造の人工心肺装置を使用している(図3)。加えて、鉗子をかけて操作することが多い血液流量の調整においても、ポンプが自動的に流量を調整する独自のシス

テムを開発することによって、煩雑な操作をすることなく血液流量を調整している。このように、安全で質の高い医療を提供するためにヒューマンエラーを減らす工夫がなされている。

■おわりに

自治医科大学附属さいたま医療センターの臨床工学部では、担当業務のローテーションや若い世代にも実践を積ませる取り組みなどを通して、あらゆる状況に柔軟に対応できる組織づくりを行っている。また、医療機器操作の効率化やこまめにインシデント報告などを行うことで、質の高い医療の提供に貢献している。同センターの臨床工学部は安心・安全な医療を提供することで、今日も地域の急性期医療を支えている。

<自治医科大学附属さいたま医療センター 概要>

所在地：埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847

標榜診療科数：20科

(内科、循環器内科、小児科、外科、脳神経外科、心臓血管外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、産婦人科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、麻酔科、放射線科、精神科、歯科口腔外科、病理診断科、救急科)

病床数：628床

(一般551床、ICU・CCU22床、EICU8床、HCU20床、NICU9床、GCU18床)

臨床工学技士数：23名(うち主任4名)

臨床工学部の学術活動(2024年)：英文原著論文1編、学会発表16回、解説その他執筆11編、講演16回

(株)Gakken クリニカルエンジニアリング編集室